事例No.	939
公表年度	R1
団体の属性	町村
団体名	鳥取県琴浦町

事例区分	公会計

タグ	・（公会計）業務の効率化 ・ICT

事例種類	業務の効率化

事例内容・タイトル

予算と公会計の科目の統一化の取組

出典

地方公会計の推進に関する研究会（令和元年度）報告書

予算と公会計の科目の統一化の取組（鳥取県琴浦町）

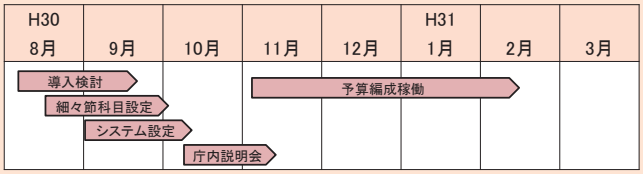
事例概要

○ 琴浦町では、期末一括仕訳を採用しており、予算科目から勘定科目の特定ができないものは、決算確定後に各事業担当課へのヒアリングで確認を要していたところ、あらかじめ予算科目の細々節に公会計上の仕訳を登録することにより、財政担当課、事業担当課双方の財務書類等の作成業務の精緻化・効率化を図った。

取組内容

○ 財務書類の作成にあたり、従来、決算確定後に各事業担当課へのヒアリングにより勘定科目を確認していたが、財政担当課職員の提案により、あらかじめ予算科目の細々節に公会計上の勘定科目を登録することとした。
○ 平成31年度予算から運用するため、当初予算の入力が始まる平成30年11月に間に合うよう、財政担当課で細々節を設定し、システムを修正。予算入力時に各事業担当課が選択ができるようにした。
○ 予算査定時に、各事業担当課から事業内容の説明を受けて、財政担当課が細々節を確認し、その際に勘定科目が特定できなかったもののみ、決算確定後に事業担当課へヒアリングを実施。
○ 導入にあたっては、予算編成方針の説明会の場を使って、細々節の選択方法、仕訳ルールについて説明し、庁内周知を行った。

【導入までのスケジュール】



【細々節への登録イメージ】

細　節	細々節の科目（設定前）	細々節の科目（設定後）
委託料	（設定なし） → 資産計上するものと、費用計上するものへと分割	1.委託料（資産外）
		2.委託料（事業用資産）
		3.委託料（インフラ資産）

効果等

○ 予算査定時に各課から事業内容を聞きながら勘定科目の確認（細々節の確認）を行うことで、仕訳精度が向上した。
○ 財政担当課、事業担当課双方のヒアリングに費やす時間、労力を削減することができる。
○ 予算編成時点で仕訳がほぼ完了するため、決算確定後の作業時間が大幅に短縮される。
○ 期末一括仕訳のため、財政担当課以外公会計に対する認識が薄かったが、全庁的に認識をしてもらうきっかけとなった。

加えて、財務会計システムの更新・入替え等のタイミングを契機として、財務会計システムと一体的な地方公会計システムを導入し、日々仕訳を導入することが有効な方策であり、それを目指すことが望まれる。ただし、日々仕訳を導入したことに併せて、固定資産台帳の更新についてもその都度行っていかなければ、固定資産台帳の更新や財務書類の作成の早期化には繋がらないことに十分注意が必要である。

②内容の精緻化

適切な財務書類の作成をしていく上では、以下のような事項を確認しつつ作業を進めることが必要であり、また、一度財務書類を作成した後にも、再度確認することが必要である。

○　仕訳が正しく行われているか（必要な仕訳を行っているか、科目誤りはないか、金額が間違っていないか）
・予算科目から公会計の勘定科目への読替えが適切に行われているか
（資金仕訳変換表に誤りはないか）
・資金仕訳での勘定科目の整理仕訳が適切に行われているか
・非資金仕訳が適切に行われているか